

令和6年度 はばたき学習（総合的な学習の時間）実践・研究計画

部 員	○井上 駿太、猿田 千穂子、稲垣 勇介、中田 貴広
-----	---------------------------

研究テーマ

自ら見いだした課題について、作り出した自分にとっての答えとしての概念を基に、よりよい方法を用いて探究していく子どもを育む学び

1 研究テーマについて

昨年度までの実践で、他者評価を受ける場を設定することで、形成した自分なりの答えである概念に他者とのずれがあることに気付き、更なる課題解決に向けての方向性を見いだし探究に向かっていく子どもの姿が見られた。一方で、他者評価に気を取られるあまり、自分の思いや願いに妥協して課題解決に向かってしまう姿も見られた。また、新たに探究活動を進める際、これまで形成した概念や一度使った考えるための技法をどのように活用するかなど、課題解決の方法によさを実感し、必要感をもって用いることに課題が見られた。

こうした成果と課題を踏まえ、はばたき学習部は、子どもが作り出した概念を基に課題解決に向かっていることを目指し、本研究テーマで実践を積み重ねていく。

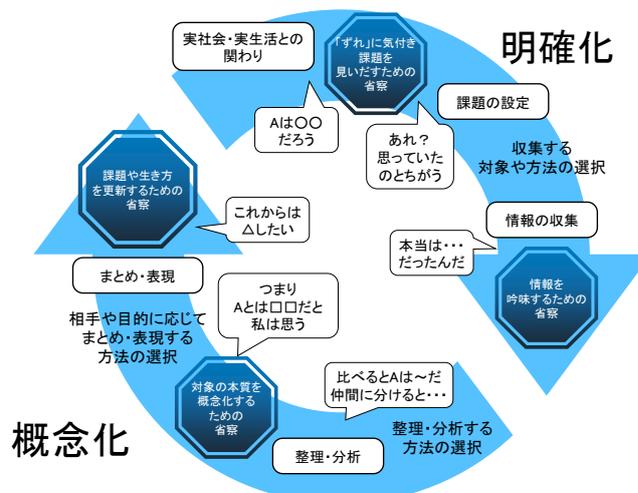
はばたき学習で目指す自律した子どもの姿

- ・「人・もの・こと」と関わりながら、予想や理想、思い込みと現実との「ずれ」に気付き、自ら課題を見いだす姿
- ・よりよい方法や視点を用いて探究する中で対象を明確に捉えていく姿
- ・対象や解決方法について学んだことを自分の言葉で意味付け、次の学びに活かす姿

他者評価において、全員統一の形式を用いるのではなく、自分の思いや願いに応じた評価の観点を各自が考え、作成することで、他者評価の目的と結果をより自分事として捉えられると考える。これにより、他者の考えを吟味せずそのまま受け入れるのではなく、取捨選択をし、自分の思いや願いにこだわりをもって主体的に探究を進める意欲につながり、自分なりの答えによって、深みのある概念が形成されることが期待できる。

そして新たな概念が、他単元や他教科にもつながり、はばたき学習以外の場面でも生きてはたらく実感を得られることで、更に高次元な概念として更新されていくと考える。

考えるための技法においては、よさを理解した上でよりよいものを選択できるようにすることで、必要感をもって活用できると考える。また、単元構想と配列を工夫し、他教科や行事などと意図的につながりをもたせることで、考えるための技法を活用する場面を設定する。これにより自分の学びが意味あるものだったと実感し、探究の意味や価値の実感にもつながると考える。



図：はばたき学習 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点 〈○は具体的な取組の例〉

探究する意味や価値、よさを見いだしながら、自分なりの答えである概念を基に、新たな探究につなげていくための支援の工夫

- 自分の思いや願いにこだわりをもって探究を続けていけるように、自分が必要とする観点の評価項目や評価相手を考え、必要感のある省察につながる他者評価の場を設定する。
- 概念更新を実感し、蓄積してきた概念や考えるための技法を活用して探究を進められるように、単元間や他教科間につながりのある単元構想と単元配列の工夫をする。

令和6年度 はばたき学習（総合的な学習の時間）全体計画

秋田大学教育文化学部附属小学校

